

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立図書館協議会				
事務局 (担当課)		図書館 電話042 - 754 - 3604 (直通)				
開催日時		令和3年11月24日(水) 18時00分～19時45分				
開催場所		相模原市立図書館 2階 視聴覚室				
出席者	委員	10人(別紙のとおり)				
	その他	3人(生涯学習課総括副主幹、他2名)				
	事務局	9人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他6名)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		人選案件のため				
議 題		1 議題 (1) 図書館事業評価について 2 その他 (1) 新型コロナウイルス感染症に関する対応経過等について (2) 新たな図書館サービスについて (3) 窓口業務等委託事業者の選考結果について (4) 淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて (5) 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会委員の推薦について (6) その他				

議 事 の 要 旨

1 議題

(1) 図書館事業評価について

資料1 - 1、1 - 2、1 - 3に基づき、事務局より説明を行った。

(松橋委員) 利用者アンケートというのは、講演会のアンケートのようなものを利用するということか。

(事務局) 個別の事業に対するアンケートとは別に、図書館全体のサービスに対してのアンケートを1年に1回実施している。

(松橋委員) どういう形式で実施しているのか。

(事務局) 図書館及び図書室内での配布と、市のホームページからWebでのアンケートを実施している。内容としては、図書館のサービスに関する満足度や、今後図書館に取り組んでほしい取組等を質問している。

(小山会長) 例年何月頃に実施しているのか。

(事務局) 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度分については令和3年の5月にずれ込んでしまったが、通常は年度明け4月に実施したいと考えている。

(小山会長) 毎年4～5月に実施するということか。

(事務局) 来年度以降も毎年実施する。

(大谷委員) 利用者アンケートについて、Web上に公開されているものを確認したが、評価の中の位置付けがよく分からない。

利用者アンケートは業務統計と同様、評価のためのデータ、素材ではないか。というのも、この利用者アンケートにおいては図書館の経営評価そのものを聞いていない。満足度や利用頻度等のデータを枠組みとして活用するというのは分かるが、手順として職員による内部評価、協議会による外部評価と書かれた後、利用者アンケートの活用となると、位置付けが分かりにくいと思う。

協議会の外部評価としては、資料1 - 1の6ページ「職員による内部評価」及び「利用者アンケート」の結果に対して行うべきではないか。内部評価と業務統計、そして利用者アンケートの結果を踏まえて、図書館がやるべきことをきちんとやれているかどうか評価し、図書館の活動として私たちが期待していることを意見として述べる方向でいかがかと思う。

また、総評として図書館の活動をしっかり評価した上で、各委員の意見に関しては、図書館として説明責任を果たせれば無理やり評価の中で

整合性を取る必要はないと考える。意見は様々な立場から出されるもので、中には図書館として1年で対応しきれないものも当然あるはずである。それは中長期的な課題として捉え、1年で対応しきれなかった旨をきちんと説明できれば、その点に関して市民への説明責任は果たせていると思う。

例えば資料1-1の11ページ「4. 今後の課題・取組の方向性を抽出」について、図書館なりに課題の方向性を抽出した上で評価を確定したいという流れは分かるが、注意しないと、対応しきれない意見や課題も予定調和的に何の問題もないように調整してしまう傾向がある。それよりも、意見は意見として掲載した上で、手続きとしては「3. 協議会で外部評価の協議」の次に「5. 評価の確定」で良いと思う。「4. 今後の課題・取組の方向性を抽出」は、今後の話として行っていくこととした方が良いのではないか。

評価の枠組みの基本的な方向性としては良いが、その点を確認しておきたい。

(小山会長) 大谷委員から、2つ議論の観点が出された。

1つは、私たち図書館協議会の委員は何をみて評価をするのか、つまり評価の対象についてである。評価の対象としては、1つは内部評価である。資料1-2の目次に、「内部評価」とあり、ここに記載された内容を見て外部評価をする。他方で、「成果指標」は評価の対象にしないよう見えてしまった。その点に関しては、内部評価で成果指標にも踏み込んで評価をしているため、「成果指標」も合わせて評価の対象になると理解している。それに加えて大谷委員から、利用者アンケート結果や基本統計も踏まえて外部評価をすべきでないかというご意見があった。内部評価を中心としつつ、その他のデータも参照しながら意見を述べるという点について私も賛成である。

もう1つは、進め方・手順についてである。「4. 今後の課題・取組の方向性を抽出」の扱いについては、昨年度までも同じようなやり方をしてきたと認識している。まず各委員の意見については、資料1-3の5ページを見ると、様々な意見を特に削ったり予定調和をしたりせずにそのまま掲載している。その点は同じやり方で良いと考える。また、資料1-3の7ページにある、「蔵書に関する指標の総括」をご覧いただきたい。こちらは図書館で作成しているが、課題と取組みの方向性の抽出について、同様のことを行うと理解している。

他方で、「3. 協議会で外部評価の協議」については昨年度まで行っていないことで、各委員の意見を踏まえ、協議会としての総評を出さなく

てはならない。また、総評の全体を見て ABC の段階評価を行うというのも新しい点である。総評と段階評価を協議会において行うという予定で進めていく。

先ほどの議論にあった評価の確定について、どの時点で行うかはこの後議論させて頂くとして、まず評価対象と、各委員がどんなことを行わなくてはいけないのかという点について共通理解を得ておきたい。事務局からは、追加で何か説明があるか。

(事務局) アンケートについては活用したいという意図がある一方で、評価の中での位置付けは迷っているところがあった。これまでの評価においては各館評価で個別に活用している面もあり、うまく機能していないと感じていた。先ほどのご意見を伺って、アンケート結果は外部評価の参考にさせていただくのが良いと考えた。

(小山会長) あくまで評価するのは図書館の活動そのもので、それが内部評価という形で提示されるということである。

(田嶋委員) 計画の進捗状況を 3 段階で評価すると記載されているが、委員個人の意見提出と併せて ABC 評価をすることによって良いか。また、3 段階はあまりにも大雑把であり、評価として意味が見出せるのか。

(事務局) 各委員からは個別の意見はいただくが、3 段階評価については、個別ではなく協議会として評価をいただきたいと考えている。

また、評価の段階については、他の図書館等の事例を参考に、まず ABC か ABCD の 4 段階で考えた。4 段階とした場合、D 評価は全く計画が進捗していないということであり、想定していないため 3 段階とした。より細かい段階が必要ということがあればご意見を伺いたい。

(田嶋委員) 3 段階だと、議論しても B になりがちだと思う。達成度と課題の軽重がこれでは捉えられないのではないか。

(小山会長) 例えば、何段階という考えはあるか。

(田嶋委員) 何か評価をするときは、5 段階は必要ではないか。5 段階だと、できてないことを指摘しようという気持ちが生まれてくる。

(小山委員) 行政評価の中でも段階評価を行っていると思うが、どのようなやり方が採用されているか教えてほしい。

(事務局) 例えば、令和元年度までの市の総合計画では主要施策を設定しており、それに対する総合評価は ABC の 3 段階で行っていた。

(小山委員) 事務局から他の図書館の事例等を参考にしたという説明があったが、一般的には、図書館も行政施策の評価の枠組みに合わせてやることが多く、相模原市の場合は 3 段階が採用されているのではないか。

(金子委員) 私も、5段階程度が良いと思う。市の方法は3段階だが、ホテルやレストランなど一般的には5段階ではないか。5段階の方が評価しやすく、また、細かく取ることによって相手に通じると思う。

(伊藤委員) 学校では4段階が多い。3か5だとどうしても真ん中の回答がされやすいため、どちらに振れているか傾向を見たい時は4にする場合が多い。学校で義務付けられている学校評価でも4段階で、文部科学省が児童・生徒に行う全国学力・学習状況調査の質問紙調査もだいたい4段階である。

(小山委員) 事務局への確認として、評価の段階を変更することは可能か。

(事務局) 可能である。

(大谷委員) Cの下は、評価外として良いのではないか。ことさらに4段階と言わず、評価はABCにして、その下は評価外にしていいのではないか。

(伊藤委員) 先ほど4段階と言ったが、評価の内容にもよる。子どもの通知表は差異を見るわけでないので、評定を含め5段階や3段階としている。差異を見たいときは4段階にしている。

(高柳委員) 資料1 - 2の3ページに、B判定の説明として「目標に沿って概ね取組を実施し～」とあるが、これは課題がなくなったわけではないということの良いか。

(事務局) 図書館として目標に沿った取組は実施しているが、成果指標が向上しておらず、課題が残るという評価として考えた。

(高柳委員) 課題がどれくらい残ったらAでどれくらい達成したらBなのか分かりにくい。また、Cは一部の取組の成果が見られるが、目標全体として課題が多いということで、全く0にするという評価は作らないのか。

(事務局) 図書館として取組も無く、成果指標も課題も進捗が見られないという状況にならないために計画を立て評価をしていくという主旨で、Dは外した。

(小山会長) 計画を立てた以上Dはありえない。計画を立て少しの取組はあったが成果が見られないのがCで、協議会の中ではそのように考えて評価はできると思う。あとは、公表した時にどのような形で受け取られるかだけだと思ふ。私としては、先ほど申し上げたように、他の行政評価と足並みを揃えて行うことが多いということは改めて伝えておきたい。

(田嶋委員) 市の行政評価も含め3段階では評価として意味がないと思うが、委員個人としては、ABCにこだわらず考えたことを評価として提出すれば良いという点は理解した。

(小山会長) まずは、各委員が意見を提出していただくところから始まる。段階評価については、今回が新たな枠組みでの最初の評価であり、事務局から

提案もあったので案に沿った方法で評価を行い、今後必要に応じて見直しをすることにしたいがよろしいか。(異議なし)

また、事務局への確認として、成果指標の 10 項目は変えないという認識で良いか。

(事務局) その通り。

(小山会長) 成果指標以外の貸出冊数等は、内部評価の中それらの統計を活用しながら評価をするということと、基本統計が資料として示されるので、それらを参考に判断していただきたい。

(松橋委員) 成果指標のうち、「『読書は好きですか』という質問に『当てはまる』、『やや当てはまる』と回答した小・中学生の割合」については、どこかでアンケートを実施しているのか。

(事務局) 学校教育課が、市内の小中学校で毎年様々なアンケートを実施しており、その中で図書館に関する項目としてその質問を設定している。

(重光委員) 成果指標が変わると、現場レベルの運用や動きは変わるものなのか。

(事務局) 図書館として普遍的にサービスを提供していくという意味ではあまり変わらないが、第 2 次図書館基本計画で定めた取組や成果指標の観点に沿って運用していくことになる。

(重光委員) 評価によって弱い部分が明確になることで、予算が獲得しやすくなるということはあるか。

(事務局) どちらかと言うと、成果がある部分の方が予算にはつながりやすい。外部評価として成果を評価いただくことで、予算要求の根拠にもなると思うので、ぜひ様々な観点からご意見をいただきたい。

(小山会長) 協議会が意見を出すことで予算に影響を与える可能性がある。ただ、以前の協議会でも議論があったように、相模原市の図書館だけを見ても伝わらないと思う。政令指定都市や近隣市との比較の視点も評価に含めると、より良い評価になると感じた。

(相馬委員) 図書館が内部評価を行い、それを委員が見るということと、市民の方へのアンケートも参考にして、外部評価をしていくという認識で良いか。

(小山委員) その通り。

(高柳委員) 資料 1 - 2 の 6 ページ「(2) 関連する成果指標」について、「新規登録者数」は年間の数字か。また、年間で新規登録者数が増えていくと登録率は上がると思うが、減少しているのは新規登録者以外の数字が影響

しているということか。

(事務局) 「新規登録者数」は年間の数字となる。また、登録率への影響として、登録には有効期限があり、更新しないと登録が削除される。有効期限切れによる登録者の減少があるため、実績値としては下がっている。

(高柳委員) 新規登録者の増加より、期限切れによる減少が上回ったということか。

(事務局) その通り。

(高柳委員) 資料1 - 2の7ページ「施策の方向 蔵書の充実」の「主な施策」について、「市民の多様な読書・情報ニーズに対応する蔵書構築」とあるが、情報ニーズというのはどこから情報収集しているのか。

(事務局) 例えば、蔵書構築や展示を行う際には、今話題になっている時事的なテーマなどを踏まえ、市民の関心に寄り添うような選書に努めている。

また、利用者からは恒常的に未所蔵資料へのリクエストをいただいております。そこからもニーズの把握に努めている。

(高柳委員) 達成されているか、判断が難しいのではないかと感じた。

(小山会長) 成果指標にはないが、蔵書回転率等、本が動いた実績がどうなっているかを計算して提示してほしい。目に見えるものと目に見えないニーズがあるため、全てを提示し十全に評価することはできないが、展示を積極的にやっているかを見ていただければ、情報ニーズに応えようとしているか様子が窺えると思う。

(事務局) 本日お配りした『相模原市の図書館 2021 (令和2年度事業実績)』の24ページに関連する数値が掲載されているため、参考にご覧いただきたい。蔵書回転率は に記載がある。

(小山会長) 評価の方向性としては問題ないため、今回の案を基に今後令和2年度の評価進めていくこととする。

2 その他

(1) 新型コロナウイルス感染症に関する対応経過について

資料2に基づき、事務局より説明を行った。

(2) 新たな図書館サービスについて

資料3に基づき、事務局より説明を行った。

(相馬委員) 来たよ・かえるよメールサービスは、何歳ぐらいの子どもを想定して始められたのか。また、実際どれくらいの方がサービスを利用している

のか。

(事務局) まず利用状況としては、現時点で件数を出すことができず、導入以降どれくらい利用されているかは不明である。また、サービス対象としては、1人で図書館を利用できる小学校低学年程度からを想定しているが、年齢制限はない。

(金子委員) そもそも、小さい子どもはパスワードを覚えているものなのか。

(事務局) 課題として、例えば簡単に貸出券をタッチするだけで済むようなシステムにできれば良い。今回のシステム改修の中では、子どもが貸出券の番号とパスワードを両方入れる仕組みとなってしまったため、利用者数としては正直厳しい部分があると予想している。

(小山会長) もしサービスが使いにくいのであれば、データをきちんと取って利用状況を把握し、改修等の根拠とした方が良い。

(相馬委員) 懸念点として、保護者の方がこういうサービスがあるから安心と思う一方で、子どもがうっかり操作を忘れてしまった場合、通知が来ないことではかえって不安にならないか。子どもの操作に頼らなくても、自然に通知が出るような形が望ましいと考える。

(小山会長) 色々な意見が出たので、参考にさせていただきたい。

(事務局) 承知した。

(3) 窓口業務等委託事業者の選考結果について

事務局より説明を行った。

(大谷委員) 図書館の指定管理や業務委託は、首都圏では応募者が減少傾向にある。プロポーザルは複数の応募者が手を挙げるという前提に成り立っている制度なので、中長期的な課題として、随意で契約条件を確定させる可能性も考えなければならない現状である。

(4) 淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて

資料4に基づき、事務局より説明を行った。

(高柳委員) 市民検討会の委員として、今まで市民検討会を14回重ねてきたのは、評価の視点を作り上げるためだったように思っている。委員の方は住民の方やご自身の活動の代表として参加をされている方が多く、それぞれの背景を基にたくさん意見を出していただいた。また、市民アンケートの回答も全て拝見して、それも参考にしながら何度も回を重ね、最終的に評価の視点を作り上げて、真摯に評価をしていただいた結果がこの表

になっていると思う。

最終的に折衷案と鹿沼公園中心案に票が多く集まっているが、他のパターンにもそれぞれの良さはある。今後、それらのメリットもいかに取り入れていくかもまた課題として、話し合っていくものと思っている。

(金子委員) 検討されている公共施設というのは、図書館と大野北公民館のみか。

(事務局) 大野北地区には、あさひ児童館、国際交流ラウンジ、青少年学習センター等の公共施設があり候補にあがっている。このような施設を集約・連携できないだろうかということが事業の発端である。

(金子委員) 承知した。個人的な意見として、相模原市は小ホールがあまり無いので、この機会に整備されると良いと思っていた。

(事務局) 現在、青少年学習センターには、250人程度収容できるホールがある。連携することによって、図書館や公民館とともに使用できるということは可能性としてあると思う。

(金子委員) 各県では駅に付随して小・中・大ホールがあることが多いため、開発に期待している。

(生涯学習課) これまでの市民検討会では、施設をどこに配置しどのように整備するかが議論の中心であった。場所が概ね決まってくれば、今度は施設の中身をどうするかに議論が移行していくものと考えている。

(5) 次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会委員の推薦について

人選案件のため、非公開

(6) その他

(田嶋委員) 先日、行財政構造改革プランの説明会に参加した。市民との質疑応答の際、2名の方から相武台分館をなくさないでほしいという発言があった。市長の返事は、相武台分館をなくして公民館の図書室を充実させネットワーク化するというものだった。そのことと、図書館の運営とはどのような整合性があるか説明してほしい。

(事務局) 行財政構造改革プランでは、本市の財政状況を踏まえ、全ての公共施設を現状維持し続けることは困難な状況が示された。図書館の計画上は相武台分館の見直しは想定されていないものの、行政全体に係るプランとして受け止めている。

相武台地区内で学校の統廃合も予定されていることから、議会答弁においては、公民館や学校などを活用した機能確保を検討するとお答えしている。

行財政構造改革プランは計画期間が令和9年までとなっており、今後地域の方と情報交換を行いながら、どのような在り方が良いか検討を進めていきたい。

(田嶋委員) 協議会の中で、これに対する意見を述べるのは埒外のことか。

(事務局) 図書館運営や図書館サービスの視点から意見があれば伺いたい。

(大谷委員) 図書館協議会は、図書館法において館長に対し意見を述べる機関とされているので、協議会としてもし考えがあるのであれば意見を述べることはできる。

(田嶋委員) 分館として存続するというだけでなく、図書館機能を相模原市中でどのように考えていくのかという視点は必要だと思った。

(事務局) 次回図書館協議会の開催については、後日日程調整のご連絡をさせていただきます。

(小山会長) 次回は、今回の協議会で評価の基本的な方法が決まったため、事務局から改めて評価をまとめたものを提示し、各委員へ評価を依頼する場になると考えている。

以上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小山 憲司	中央大学文学部教授	会 長	出 席
2	高柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会副会長	副会長	出 席
3	伊藤 隆一	相模原市立相原中学校長		出 席
4	相馬 圭	相模原市立桂北小学校長		出 席
5	高井 登志子	相模原市公民館連絡協議会副会長		出 席
6	金子 友枝	相模原市文化協会副会長		出 席
7	大谷 康晴	青山学院大学コミュニティ人間科 学部教授		出 席
8	重光 崇	女子美術大学図書美術館グループ グループ長		出 席
9	田嶋 いづみ	公募		出 席
10	松橋 利光	公募		出 席